

授業科目 NO. 609 療養生活支援看護実習

Recuperative Life Support Nursing Practicum

授 業 の 形 態 : 実習

単位数 (時間数) : 2 単位 (90 時間)

開講年次・学期 : 3 年次・前後期

必修・選択の別 : 必修

キ ー ワ ー ド : 療養生活、地域、外来治療支援システム、外来看護、
入院前支援、退院支援

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 習 目 標

1) 一般目標 (GIO)

地域で療養しながら生活する対象へのインタビューと地域訪問を通し、療養者、生活者の視点から最適健康を保つための個々の生活のあり方と強みを理解し、療養生活継続における外来治療支援システムおよび外来看護の役割について考察する。入退院支援のしくみとその支援方法を理解し、多職種連携のあり方および入退院支援看護について考察する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 地域で療養しながら生活する対象が療養生活継続に関与する外来治療支援システムと外来看護の役割を理解できる。(①②③)
- (2) 入退院支援の仕組みとその支援方法を理解し、多職種連携のあり方および入退院支援看護について考察できる。(①②③)
- (3) 既修の知識と看護実践力を統合し、地域で療養しながら生活する対象の生活のあり方・強みを理解することができる。(②③)
- (4) 外来治療支援システムおよび外来看護、地域訪問の学修を統合し、対象その人らしさを活かした、今後の療養生活を支援するための外来看護を考察することができる。(①②③)
- (5) 対象が療養生活を送る地域および生活圏(自宅の周辺)を訪ね、環境、日常生活圏域の文化、活用できる社会資源を考慮した外来での看護支援を考えることができる。(①②③)

3 学 習 内 容

実習の内容については、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	100%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

実習成績は実習評価表の「実習目

標 1) ～5) および情意領域／総合」に沿って評価する。

5 教 育 担 当 者

科目責任者 : 村角 直子

教 授 村角 直子 (成人看護学)

教 授 清水 玲子 (成人看護学)

准 教 授 北村 佳子 (成人看護学)

准 教 授 浅野 きみ (成人看護学)

講 師 金松 瑞代 (成人看護学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は看護師の実務経験を有している。

7 教 科 書

小松浩子他 (編集) : 成人看護学 1 成人看護学総論、医学書院

河原加代子 (編集) : 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤、医学書院

河原加代子 (編集) : 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践、医学書院

荒賀直子・後閑容子 (編集) : 公衆衛生看護学. jp、インターメディカル

8 推 薦 参 考 書

実習にて紹介する。

9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

1) 関連する講義および演習内容を復習しておく。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 実習記録について、適時コメントする。
- 2) カンファレンス・反省会、評価表により、到達度や今後の課題をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 実習中は遅刻・欠席をしないように、体調管理に十分注意して臨むこと。
- 2) 疑問・質問は、なるべくその日のうちに教員・実習指導者に確認すること。
- 3) 実習後の評価と内省は十分行うこと。
- 4) 感染予防策に関しては、「看護学部臨地実習の要項」に準ずる。

12 オフィスアワー等

随時訪問は可能であるが、事前に都合を確認すること。

村角 murakado@kanazawa-med.ac.jp

清水 rshimizu@kanazawa-med.ac.jp

北村 kitamu@kanazawa-med.ac.jp

浅野 asanok@kanazawa-med.ac.jp

金松 nmizuyo@kanazawa-med.ac.jp